



四小だより

令和7年 1月 29日
府中市立府中第四小学校
校長 安原 一朗
No. 12



新1年生保護者会の話

～むごい教育とは～

校長 安原 一朗

3学期になると、いろいろな小学校の研究発表会を見に行く機会が増えます。私は研究発表会に行くと、全教室を回ってみるようになっています。教室の前黑板や前の掲示物を見るとその小学校の様子が見てとれます。この学級の先生は個性的だなとか、悪い場合はこの先生はスタンドプレイヤーなんだなとかわかります。教室で勉強しているときには筆箱を見ます。教科書等は皆同じですが、筆箱だけは皆それぞれ違うので、筆箱にはその地域の様子がわかるからです。ポケモンの筆箱はないとか、バナナの皮をもいだような縦置き型の筆箱はないとか、ハンドバックのような大きい筆箱に色ペンジャラジャラの学年学級はないとか、一目でその学校の様子がわかるものです。最近は色ペンジャラジャラの学校は少なくなってきました。ポケモン筆箱もほとんど見かけなくなってきました。四小でもそうです。以下、新1年生の保護者会で話した予定のものです。

江戸幕府を開いた徳川家康は、子供の頃、隣国の戦国大名の今川義元の人質となっていました。そのとき、義元は家来に「家康に『むごい教育』をせよ。」と命じました。

（授業では、ここで子供たちにおむごい教育とはどんなことだと思う？と聞くと、「ご飯を上げない」とか「一日中走らせたりして、しごく」等、答えてくれました。）

家来たちは「『むごい教育』だから、厳しく鍛えあげろということだろう。」と解釈して、粗末な食事を与え、早朝から家康を武芸に励ませるなど、一日が終わった夕方にはトイレで腰を下ろせなくなるほど厳しくしたのです。数日して、義元は、家康の養育係を呼んで尋ねました。「『むごい教育』をしているか。」すると、養育係は「はい、『むごい教育』をしています。朝起きるときからすべて駆け足で行動させ、三食は粗食を与え、休憩も最小限にして、修行僧のように鍛錬しています。」と報告しました。これを聞いていた義元は、語気を荒げて「それは『むごい教育』ではない。」と怒りました。義元の言葉を聞いて、並み居る家来たちは、怪訝そうな顔で義元の次の言葉を待ちました。（授業では、ここで、「なんて怒ったんだろうね？」と軽く聞きました。）

義元は、家来たちに次のように言ったそうです。

「朝から晩までうまいものを食べさせろ。冬は寒くないように温かくしてやり、夏は暑くないように涼しくして、それはそれは大事にしてやれ。そうして欲しがるものは何でも買ってやれ。」

（授業では、子供たちに「何でこれがむごい教育なのでしょう？」と聞いて数名発表してもらいました。）

義元は、最後に次のように言いました。

「そうすれば、大抵のやつはだめな人間になる。」

私は、上記の今川義元の逸話から、学ぶべきことがあるように思います。子供がスマートフォンがほしいとねだってきたら・・・、ゲームやユーチューブ三昧の生活だったら・・・、どうすればよいでしょうか。子供の心の様子をしっかりと捉えながら、時には厳しく、時には丁寧に諭し、導いていくことが、私たち大人に求められていると思います。新1年生では、様々な準備が必要です。新しい筆箱を買う場面もあるでしょう。学校では本人や周りの児童の刺激にならないようシンプルなもの、漫画やゲームのキャラクターのプリントがないものをお勧めしています。「ポケモンの筆箱がいい。」と駄々をこねる我が子に毅然と理由を言って納得させることができるでしょうか。そこが、分岐点かもしれません。その時こそ、感謝する心や我慢する心もった人に育て上げていくいい機会になることでしょう。その子にあった方法は何かを考えながら、ご家庭と学校がいっしょになって取り組んでいきたいと思っています。

もうすぐ立春ですが、まだまだ寒い日が続くようです。来週の初めには、雪の予報が出ています。積雪の様子にもよりますが、たくさん積もったら、靴下の替えを持たせて、できれば水をはじく上着を着せて、長靴をはかせて送り出してください。子供たちに思いっきり雪遊びをさせてあげたいものです。